

委員会提出第1号決議案

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の成功について
感謝の意を表する決議

上記の決議案を別紙のとおり地方自治法第109条第6項及び大阪府
議会会議規則第13条第2項の規定により提出します。

令和7年10月16日

大阪府議会議長 金城克典様

提出者

2025年大阪・関西万博推進特別委員会

委員長 森和臣

委員会提出第1号決議案

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の 成功について感謝の意を表する決議

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158もの国・地域及び7国際機関が参加され、4月13日から10月13日までの半年間にわたって開催された。国内はもとより世界各国から2,900万人を超える多くの人々が来場され、老若男女問わず幅広い参加と交流が深まるとともに、人類の共通課題である持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた取組を加速させるなど、大阪・関西万博は世界が一つとなり未来を模索する場となった。

会場では、日本の伝統的な建築工法を駆使した「大屋根リング」が大阪・関西万博におけるシンボルとなり、パビリオン展示やステージ公演は世界各地の文化やライフスタイルに触れるきっかけとなった。加えて、新技術を搭載したEVバス、水素燃料電池船の航行、空飛ぶクルマのデモ飛行等が披露され、悠久の歴史・文化と新時代の到来を告げるイノベーションとの融合は、まさに未来社会を体感させるものであった。

こうした万博を後世に継承していくための取組の一つとして、閉幕日には「いのち輝く未来社会」に向けた世界共通の行動基準と言える「大阪・関西万博宣言」がとりまとめられた。

大阪・関西万博は、多くの人々に大阪・関西の魅力を発信する絶好の機会になっただけでなく、日本の国家戦略であるSociety5.0実現に向けた実証の場になるなど、極めて大きな成果をあげたと言えよう。

大阪府議会は、大阪・関西万博で披露された新技術やアイデア、多様な文化と交流など「万博の成果」を一過性のもので終わらすことなく、これらを大阪のさらなる発展につなげることを決意し、次世代へのレガシーとして継承されることを希求する。

平成30年11月に国を挙げての誘致活動が結実し、大阪・関西万博の開催が決定されて以来、新型コロナウイルス感染症流行などの幾多の困難を乗り越え、諸準備や運営に全力で臨まれた参加国・地域、各自治体、各企業、国、博覧会協会をはじめとする関係機関、おもてなしの心をもって活躍いただいたスタッフ・ボランティアの方々、多様なイベントで万博を盛り上げていただいた参加者・来場者の方々など、多くの人々の協働により、この万博は成功裏に終わった。

大阪府議会は、大阪・関西万博に取り組み、参加し、そしてお力添えをいただいたすべての皆様に敬意と感謝の意を表する。

以上、決議する。

令和7年10月 日

大阪府議会